



熊本みんなの家 (公民館型) (令和2年7月豪雨)

HOME-FOR-ALL for
Permanent Housing in
Kumamoto
(the Heavy rain of July 2020)

令和2年7月豪雨では球磨川流域に被害をもたらし、
地域住民が集う公民館も被災した。

このプロジェクトは、
平成28年熊本地震での公民館型みんなの家に引き続き、
日本財団からの支援を受け、
一般財団法人熊本県建築住宅センターとの
協働により実現した。

建設にあたり九州の学生らで組織された九州建築学生
仮設住宅環境改善(KASEI)プロジェクトも協力し、
住民との意見交換や施工中のワークショップを行うなど
住民と一緒にあってつくった「みんなの家」である。

くまもと
アートポリス
KUMAMOTO
ARTPOLIS

八代市のみんなの家

柳澤潤／コンテンポラリーズ

2020年7月の熊本・球磨川流域を襲った豪雨により大きな災害を被った中津道・三坂地区、藤本・大門地区の二地区に建つ公民館型「みんなの家」である。被災後もここに残られた方たちはお互いが小さな頃から川と山に親しみ、仲間と自然の中での営みを大事にし、つつましく暮らしてきた。公民館型「みんなの家」はこうした状況の中、くまもとアートポリスプロジェクトの一環として日本財団による支援を得て、被災地に地域の規模によって建設される公民館である。延床面積はそれぞれ中津道・三坂地区は60㎡、藤本・大門は100㎡と決められた。

設計は基本設計時、地域ワークショップを数回経て、地元の方に説明を重ね、案をその都度ブラッシュアップして模型やパースなどを示しながら進めていった。こうした地元で行う地域ワークショップにはKASEIという九州にある建築系の大学生がボランティアで駆けつけて来て、ワークショップを盛り上げてくれた。若者がこうした地域の状況を肌で感じ、お年寄りとも会話し、お互いが思いやれる場があるというのはとても良い企画であった。

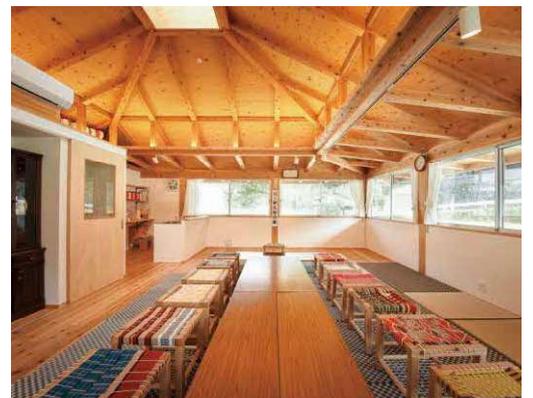
なかつみち

中津道のみんなの家



中津道・三坂は一辺約8.2mの方形平面を採用、柱間2.73mの3スパンを180mm角の木柱ラーメン構造で屋根を支えている。周囲の美しい風景を内側から常に眺められるように建物三方に開放された水平窓を設けた。また軒を1.5m全周に伸ばし、縁側のような木陰を設け、外壁周りでもちよつと休憩したり、行んだりする場所として設定した。屋根勾配を3.5寸から1寸勾配に分けることで、堂々とは建ちながらも人を迎える「構え」をこの「みんなの家」の特徴としている。

所在地／八代市坂本町 延べ面積／60.87㎡ 施工者／有限会社 松本工務店
完成時期／2023年6月 建築面積／84.46㎡



● 建築データ (共通)

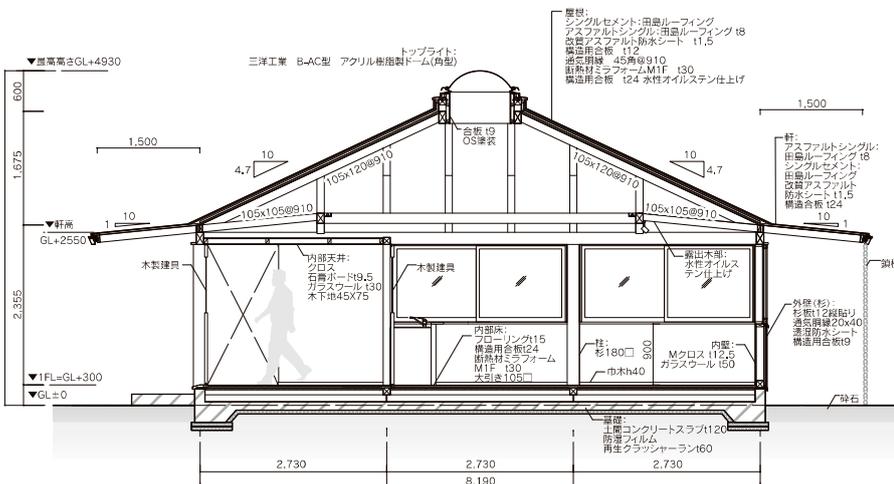
中津道のみんなの家
藤本・大門のみんなの家

名称／八代市のみんなの家
設計者／柳澤潤／コンテンポラリーズ＋
関東学院大学柳澤研究室＋
Yap Minwei

主要用途／地区公民館
階数・構造／地上1階・木造
屋根仕上げ／アスファルトシングル葺き
外部仕上げ／杉板張り、木材保護塗装
内部仕上げ／床：フローリング
壁：クロス貼り
天井：構造用合板

事業主体／(一財)熊本県建築住宅センター、
日本財団

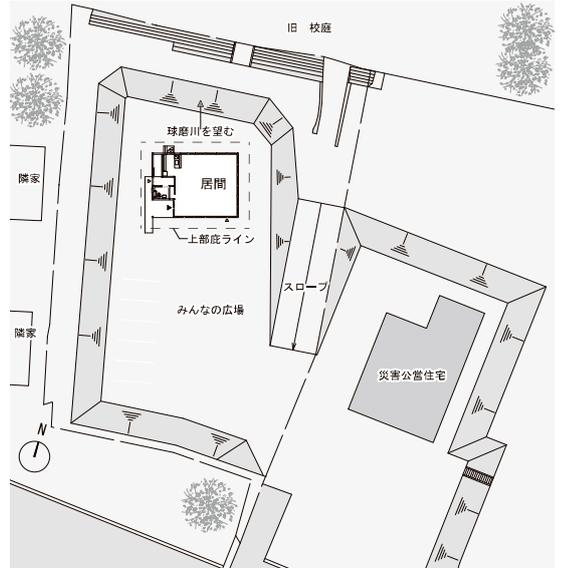
事業協力／(一社)KKN
協力者／田島ルーフィング、大光電機、
熊本県い業生産販売振興協会、
熊本県いぐさ・量表活性化連絡協議会、
KASEI



— 中津道のみんなの家 矩計図 —

ふじもと おおかど

藤本・大門のみんなの家



敷地は氾濫した川べりで、高台を造成し、高さ方向において川との距離をとっている廃校跡地である。街道側に寄せて、8.2m平方の広間を採用し、川、隣接する既存住宅と直接向き合わないよう、角度を少し振って配置した。このわずかな振幅により周辺に溶けこみながらも堂々と自立した建ち方を意識している。

所在地／八代市坂本町 延べ面積／89.43㎡ 施工者／有限会社 堺建設
完成時期／2023年9月 建築面積／109.55㎡

■ワークショップ・意見交換会

「みんなの家」は、地域住民等の意見を反映するとともに、コミュニケーションの活性化を促すため、地区住民と設計者との意見交換やワークショップなどを行った。また、家具や花壇づくりなど住環境整備に取り組む「KASEIプロジェクト」とも協力し、被災地区の創造的復興に向けた地域づくりの拠点となるよう取り組んだ。



人吉市のみんなの家

乾久美子／乾久美子建築設計事務所

避難所機能も期待される「みんなの家」の設計に対して、球磨川水系の治水対策の方針が定まらない中でスタートしたこともあり、再度の被害の可能性を見据えて検討した。被害を考えると床を地面から浮かしたほうがよく、高齢者の利用が多い日常を考えると、床は地面から近いほうがよいというような矛盾を解消するため、コンクリートの布基礎をすこしばかり高くしている。入口だけは止水版や土嚢でしのいでもらわなければいけないが、その他の部分は腰高までコンクリートの「お椀」があるので安心、というつくりである。

意見交換会では、これまで活発に使われていた様子を知ることができ、公民館という存在が生活に根付いて生きていることを感じた。そして、町によって使われ方や大切にしていることにバラエティーがあることや、また、人吉市内での町の歴史的な位置付けも違うこともわかった。そこで、敷地の特徴や使い方にあわせてプロポーションや大きさ、プランを違えながら、それぞれの町の求めるかたちへと変形させていったところ、同じような形でありながらも、存在感もボリューム感も全く異なる4つのお堂のような建築になっている。実現に向けては、施工者の真摯な対応はもちろんのこと、屋根材や照明器具など様々な建材をメーカーの方々から支援いただいた。

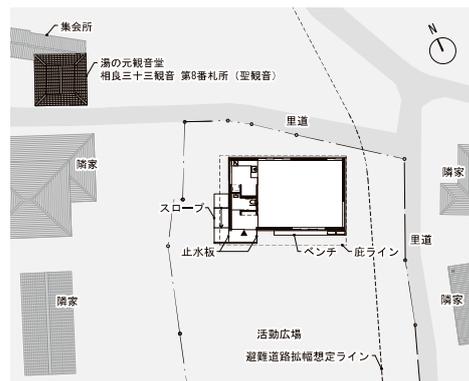
おんせんまち

温泉町のみんなの家



人吉市中心市街地から少し離れたところに位置し、湯の元観音という観音堂と一体となりながら運営される。敷地に余裕があり外でのラジオ体操や、自治会の夏祭りや地区の盆踊りの会場にもなる。室内では地域の集まりであるお茶会だけでなく、習い事の会場としても利用されている。将来的には球磨川下りの来客を受け入れる休憩所にもしたいという意見があり、テイクアウトのカフェスタンドにもなるキッチンとした。

所在地／人吉市温泉町 延べ面積／105.99㎡ 施工者／有限会社 ウエダホーム
完成時期／2023年3月 建築面積／94.60㎡



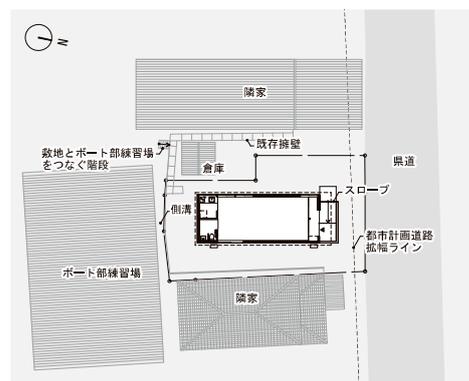
しもしんまち かみしんまち

下新町・上新町のみんなの家



ふたつの町で運営するみんなの家である。途中で敷地が変更になったが、変更後の敷地の造成や敷地内の倉庫建設などは、自治会会長が独自に手配し、施工を行なっている。その行動力に舌を巻き、頼もしく思いながら設計を進めた。面積は小さいながらも、ダンスや体操会、老人会、料理教室など、積極的な活動が展開している。近くの病院の帰りに立ち寄る場所にもなることが期待されている。

所在地／人吉市下新町 延べ面積／56.49㎡ 施工者／宮田建設株式会社
完成時期／2023年6月 建築面積／54.08㎡



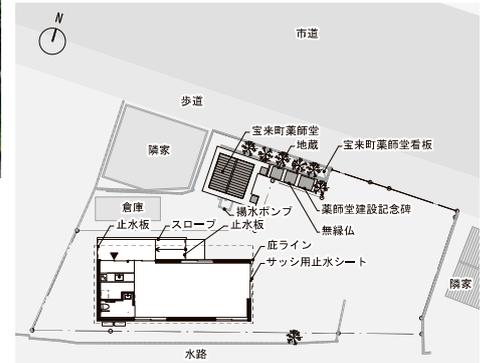
ほうらいまち

宝来町のみんなの家



公民館と宝来薬師堂が車道で分断されていたことに不便を感じていたことから、被災を機に敷地を宝来薬師堂の脇に変更した。敷地は決して広くはないが、夏祭りなどの活動が活発に行われていることから、この町だけは浸水対策をしなくてはいけない入口をふたつにして日常の使い勝手を優先させている。

所在地／人吉市宝来町 延べ面積／59.58㎡ 施工者／株式会社 モリスデザイン
完成時期／2023年7月 建築面積／56.73㎡



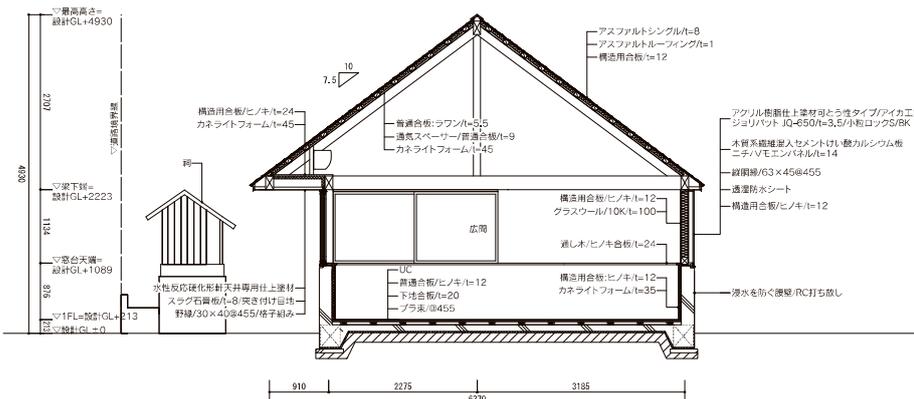
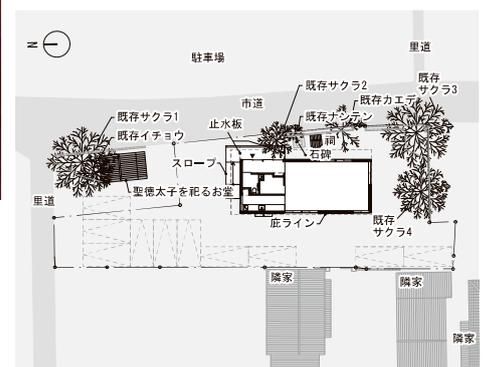
だいくまちにのまち

大工町・二日町のみんなの家



人吉市内でも最も歴史が古く、人吉藩の時代から栄えてきたと言われている地区にある、ふたつの町が合同で建てたもので、自治会の集会所、老人会、夏祭りの会場などで利用される。敷地内に既存のお堂があったため、お堂に現行法規が遡及されないように、敷地を分筆して申請をしている。他にも祠や、サクラの木など、住民が大切にしている要素を避けつつも、貸し駐車場スペースの確保にも努めた。

所在地／人吉市大工町 延べ面積／92.22㎡ 施工者／株式会社 小川工務店
完成時期／2023年6月 建築面積／78.56㎡



— 大工町・二日町のみんなの家 矩計図 —

● 建築データ (共通)

温泉町のみんなの家 / 下新町・上新町のみんなの家
大工町・二日町のみんなの家 / 宝来町のみんなの家

- 名称／人吉市のみんなの家
- 設計者／乾久美子／乾久美子建築設計事務所
- 主要用途／地区公民館
- 階数・構造／地上1階・木造
- 屋根仕上げ／アスファルトシングル葺き
- 外部仕上げ／ジョリパット
- 内部仕上げ／床：ヒノキ合板、モルタル金ゴテ仕上げ
壁：ヒノキ構造用合板
天井：ラワン合板、ヒノキ構造用合板
- 事業主体／(一財)熊本県建築住宅センター、日本財団
- 事業協力／(一社)KKN
- 協力者／田島ルーフィング、大光電機、TOTO、熊本県い業生産販売振興協会、熊本県いぐさ・量販活性化連絡協議会、KASEI

球磨村のみんなの家

渡瀬正記+永吉歩／設計室

南北に長い球磨村を東西に横断する球磨川に沿った3つの集落に建つ球磨村のみんなの家。球磨川は熊本県南部の人吉盆地から八代海へと注ぐ急流である。球磨村は山が多く古くから林業の盛んな地域である。今でも丸太を積載したトラックが球磨川沿いの国道を行き交い、木材はこの地域の人たちにとって最も慣れ親しんだ地産素材である。球磨村のみんなの家ではしっかりした断面の木材を見えるように多用することで地域住民が誇りを感じる場所をつくることを考えた。

球磨川やその支流に沿って散在する集落には山肌に折り重なるように伝統的な屋根を持つ家屋が多く見られ、時代の変化の中にも地域の集落の原型を感じることができる。そこで球磨村のみんなの家では地域の地形や風土と調和させるための手段として典型的な屋根形状を採用し、以前からそこに建っていたような佇まいを持たせている。一方で、屋根にはまとまりを生み出す力があると考え、架構を工夫して屋根のかたちをそのまま内部のかたちとすることで、包容力と特徴のある地域共用の居間空間をつくることにした。

公共性のある施設の場合、どのように地域社会に着地させていくかということも大きな課題である。お仕着せの施設とならないように、球磨村のみんなの家では設計時の意見交換や建設時の外壁の色決め、塗装作業など、地域住民との折々のワークショップを介してプランの決定や建設の課程に関わってもらい、体験や記憶を地域で共有することで建物の計画や建設を自分ごとにし、この建築を地域に根付かせようとしている。定期的なメンテナンスが必要な木質の外装も将来的な地域住民の協働の機会となると考えている。

わたり

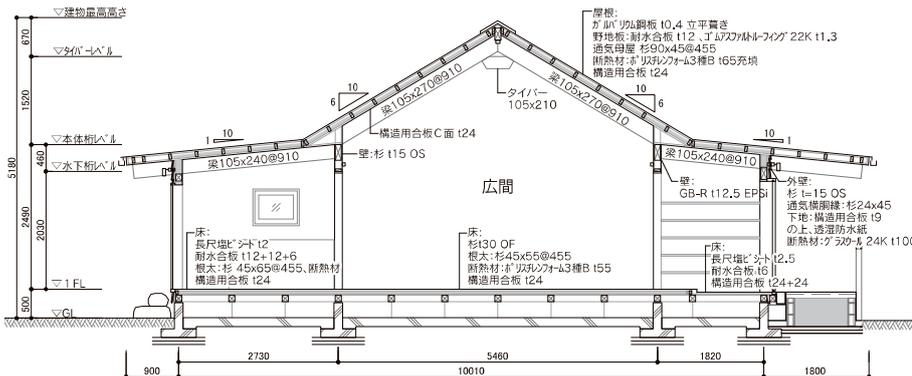
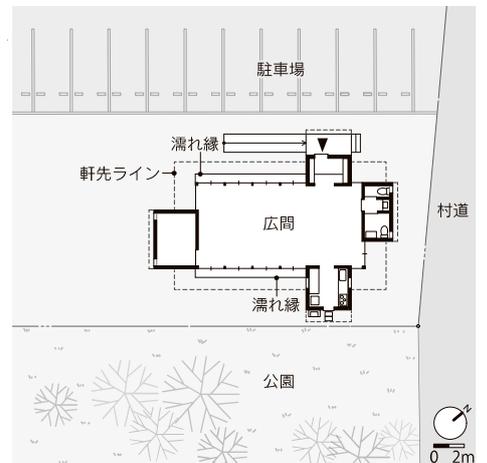
渡のみんなの家



入母屋×広間中心

渡のみんなの家は広間中心である。敷地は平坦な住宅地の一角で小さな公園に面している。ワークショップでは集会場機能の要望が多かったことから広間を中央に置き、設備、倉庫、玄関などの附室を広間の周りに分散配置した。附室に面するところ以外は全て開口とすることで、周囲から広間の様子がわかり、気軽に広間へ上がって来られるようにしている。

所在地／球磨村渡 延べ面積／88.60㎡ 施工者／株式会社五瀬建築工房
完成時期／2024年1月 建築面積／101.79㎡



— 渡のみんなの家 矩計図 —

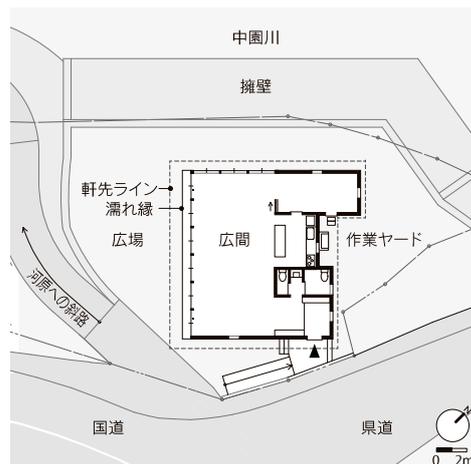
● 建築データ (共通)

渡のみんなの家 / 中国のみんなの家
神瀬のみんなの家

名称／球磨村のみんなの家
設計者／渡瀬正記+永吉歩／設計室
主要用途／地区公民館
階数・構造／地上1階・木造
屋根仕上げ／ガルバリウム鋼板立平葺き
外部仕上げ／杉板張り、木材保護塗装
内部仕上げ／床：フローリング、
コンクリート金ゴテ仕上げ(神瀬)、本畳(神瀬)
壁：EPS塗装
杉板張り+OS塗装(渡)
天井：構造用合板
事業主体／(一財)熊本県建築住宅センター、
日本財団
事業協力／(一社)KKN
協力者／熊本県いぐさ・量産活性化連絡協議会、
熊本県いぐさ・量産活性化連絡協議会、
KASEI

なかぞの

中園のみんなの家



コの字型片流れ×キッチン中心

中園のみんなの家はキッチン中心である。敷地は球磨川沿いの国道と支流の中園川に沿った県道の合流地点にある。ワークショップではかつての集落での催しの思い出と、集会場というより住民が集まる場所への要望が多かったことから真ん中にオープンキッチンを置き、それを囲むようにコの字型の居間空間を配置することで気軽に居やすい環境をつくり出している。

所在地/球磨村中園 延べ面積/101.03㎡
完成時期/2026年3月 建築面積/107.55㎡
施工者/株式会社山田工業



こうのせ

神瀬のみんなの家



L字型切り妻×土間中心

神瀬のみんなの家は土間中心である。敷地は球磨川から支流の川内川に沿って奥に続く神瀬地区の入口にあり、芝生公園、土の広場、駐車場の3つのオープンスペースに面した角地にある。ワークショップでは、イベントの多い地区であることからイベント時のサポートとなるように土間中心の内部と屋根付きの屋外土間を求められた。室内の一部には小上がりの畳スペースを設けている。

所在地/球磨村神瀬 延べ面積/110.45㎡
完成時期/2025年6月 建築面積/108.68㎡
施工者/株式会社出田建築工房



八代市のみんなの家

● 建築家プロフィール



柳澤潤(やなぎさわ じゅん)

1964 東京都生まれ
1989 東京工業大学工学部卒業
1991 ベルラーヘンステイテュート留学
1992～伊東豊雄建築設計事務所
2000
2000 コンテンポラリーズ設立
2016～関東学院大学建築・環境学部教授

人吉市のみんなの家

● 建築家プロフィール



乾久美子(いぬい くみこ)

1969 大阪府生まれ
1992 東京藝術大学美術各部建築科卒業
1996 イェール大学大学院建築学部修了
1996～青木淳建築計画事務所勤務
2000
2000 乾久美子建築設計事務所設立
2011～東京藝術大学美術学部建築科准教授
2016
2016～横浜国立大学大学院(Y-GSA)教授

球磨村のみんなの家

● 建築家プロフィール



渡瀬正記(わたせ まさのり)

1968 静岡県生まれ
1992 東京工業大学工学部建築学科卒業
1992 妹島和世建築設計事務所勤務
1993～青木淳建築計画事務所勤務
1997
1998 一級建築士事務所設計室設立
2013 有限会社設計室 代表取締役就任



永吉歩(ながよし あゆみ)

1975 大阪府生まれ
1998 東京デザイナー学院卒業
1998～建築士事務所勤務
2003
2003～一級建築士事務所設計室
2013 有限会社設計室 取締役就任

中津道のみんなの家



藤本・大門のみんなの家



温泉町のみんなの家



下新町・上新町のみんなの家



宝来町のみんなの家



大工町・二日町のみんなの家



渡のみんなの家



中園のみんなの家



神瀬のみんなの家

